

主 題：七つの教会への使信6 フィラデルフィア教会—みことばに従順であった教会
聖書箇所：黙示録 3章7—13節

今日は黙示録3章7節から、フィラデルフィアの教会に対する神の使信、メッセージを見ていきます。7節「また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。』、これまでの使信と同じように、だれに対するメッセージなのか？だれからのメッセージなのか？そのことが最初に記されています。

A. 主の使信 7節

1. 宛先： フィラデルフィア

フィラデルフィアという町は現在は「アラシェヒル」という名がついています。フィラデルフィアという名はこの町を建設したペルガモの王、アッタロス・フィラデルフォスという名にちなんで付けられました。ギリシャ語では「兄弟愛」という意味があります。この町はルデヤやフルギヤと隣接していたために、この町々にギリシャ文化やギリシャ語を普及させるために建てられたと言われています。先に見たサルデスの町から南西に約35キロ内陸に入ったところに位置しています。

次のことを覚えていただきたいのですが、この土地の付近一帯は火山地帯で地震が頻繁に起こっていたようです。この地震に関して神学者パークレーは、古代ローマ時代のギリシャ系の地理学者であったストラボンの証言をこのように記しています。この人物は紀元前63年頃から紀元23年頃に存在したのですが、彼はこのフィラデルフィアの町についてこのように言っていると言います。「地震による振動は連日起こり、家の壁には亀裂が生じた。今日は町のある箇所が破壊され、明日は別の箇所が破壊されるという有様で、市民の大部分は町の外に小屋を建てて住み、落石や倒壊する石の下敷きになることを恐れて町の中に入ろうとしなかった。勇気を出して市内に住もうとする人たちは狂人扱いされた。この人たちは揺れ動く建物を支えて日を過ごし、時折、安全な場所に避難していた。」と。地震が多い町だったということ覚えてください。

また、後にこの町は大都会へと発展していきますが、やがて、トルコのイスラム教徒が潮のように小アジアに侵入し、すべての都市を降伏させていきますが、このフィラデルフィアだけは確固として独立を維持し、数世紀に亘って異教徒の中にあっても唯一の自由なギリシャ都市、キリスト教徒の都市となったと言われています。もう一つ、この町は農業が盛んで、特に、ぶどうの一大生産地でもありました。このフィラデルフィアに宛ててメッセージが送られているのです。

2. 送り主

送り主はもちろん、神ですが、神ご自身に関して大切なことが教えられています。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、』と。

1) **聖なる方**： 神は罪のないすべてにおいてきよいお方です。そのことはもう説明するまでもありません。罪が少しでもあるならそれはもう神ではありません。きよい正しい罪のない天使たちでさえも恐れを抱く、そのようなお方です。その方の前に今私たちは立っているし、その方の前に生きているのです。同時に、「聖なる」と言ったときに、これは神の働きのために聖別された、分けられたという意味でもあります。神の特別な働きのために特別に分けられたということです。イエスを見ると、イエスは父なる神のみこころを行なうためにこの世に来られました。聖別された、父なる神の働きのために敢えて選り分けられた存在です。私たち罪人に救いをもたらすために、父なる神のみこころに従って人としてこの世に来られ、十字架に架かり、救いを成し遂げてください、神の特別な働きのために分けられた、まさにその方がイエスです。罪のない完全な神でありながら、父なる神のみこころに従って、その特別な働きのためにこの世に来られた方です。

2) **真実な方**： この方には偽りが一つもないということです。この方が話されることは常に真実であると。だから、イエスが「まことの救世主である」と言われたときに「100%その通り」なのです。ヨハネはこのように言っています。Iヨハネ5：20「しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいます。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。」、イエスご自身が真実なお方であると言います。神はうそ偽りのない真実なお方です。イエスがこの世に来られたのは、その真実な方である神を明らかにするためであり、ご自身が神であるとみことばが教えます。「わたしが言うことがその通りだ」と。だから、信頼できるのです。人間のことばではよく分かりませんが、神のことばであるな

ら私たちは信頼を置くことができるのです。

3) **祝福の源** : 「**ダビデのかぎを持っている方**」とあります。これは「祝福の源である」ということです。実は、このみことばは旧約聖書のイザヤ書から引用されています。22:22「わたしはまた、**ダビデの家のかぎを彼の肩に置く。彼が開くと、閉じる者はなく、彼が閉じると、開く者はない。**」、今見ている黙示録に記されていることと非常によく似たことが書かれています。では、このイザヤ22:22はだれに対して書かれているのでしょうか？ヒルキヤの子エルヤキムはユダの王であったヒゼキヤに仕える宮内長官でした。彼はかぎをいただいていた。すなわち、王の宝物蔵から自由に持ち出すことが出来る権利を得ていました。そのことがイザヤ書に書かれています。そこで、まさに、それは主と同じであるというのです。主はご自分が望む人に祝福を与える権利を持っておられます。

よく考えると、私たちも神から一方的にこの祝福をいただきました。あなたが今、救いに与っているというこの恵みは、あなたが何かをしたからとか、あなたが特別な人だからというので神が与えてくださったのではありません。神が私たちにくださっているそのすべては私たちに全くふさわしいものではありません。私たちはその神の祝福をいただく資格は全くありません。救いに与る資格も、神の祝福を日々いただきながら生きる資格もありません。その証拠に、私たちは神の前にどれほど罪を犯し続けていることでしょうか？

私たちはこうして主の前に礼拝をささげていますが、その心はどうでしょう？神の前に立っていること事態が恐ろしくありませんか？神は心の隅々まですべて見通しです。なぜ、私たちは神の前に立つことができるのか？なぜ、神は私たちを受け入れてくださったのか？それは、神が一方的な恵みをもってあなたにこのような行為を示してくださったからです。神があなたを祝福してくださった。ご自身のご計画に基づいてこの祝福を私たちに与えようとしてくださった、その権利をお持ちなのです。

また、この「**ダビデのかぎ**」というのは、エルサレムは「**ダビデの町**」と呼ばれました。私たちは天のエルサレムを待っています。言い方を変えるなら、私たちは神の備えられた**ダビデの町**に入ること、その日を待っているのです。そこに入るかぎをもっていると言うのです。この「**かぎ**」とは「**権威**」を表わしています。この方には**権威**があると言います。だれがその**ダビデの町**に、天のエルサレムに、永遠の都に、天国に入るかぎをもっているのか？このお方、主であると言います。

ですから、この方の一方的な恵みによって私たちにこのすばらしい祝福が与えられたのです。**ダビデのかぎ**を持っている方であると。

4) **全能の主権者** : 「**彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、**」と書かれています。「**全能の主権者である**」とそのことを言われます。主が全能の主権者であると。ですから、主イエスが為されることをだれも妨げることができません。主がこのように為すと決められたなら、だれも妨げることができないのです。主が御国の扉を開かれるときにだれもその扉を閉じることができないし、主がその扉を閉じられるときに、そのみこころに反してだれもその扉を開くことが出来ない。つまり、主はご自分のみこころを為され、それに逆らうことはだれにもできないということです。

イザヤ43:13「**これから後もわたしは神だ。わたしの手から救い出せる者はなく、わたしが事を行えば、だれがそれを戻しえよう。**」、神である方が為されることにだれも反対できないし、だれもそれを妨げることができない、それが神です。イエスはここで「**それがわたした**」と言われたのです。神であられる方、主イエス・キリストが次のメッセージをこの教会に対して与えるのです。

B. 主の評価 8、10節

ここには主の教会に対する評価が書かれています。8節には「**わたしは、あなたの行いを知っている。**」と、これまで見て来たのと同じことが記されています。主はこの教会のすべてのことを知っているというのです。8節と10節を見ると、この教会への評価は称賛だけしか書かれていません。批判はありません。このフィラデルフィアの教会とスミルナの教会だけが、神からの非難がありません。すばらしい教会であったと言えます。では、どのように神は彼らのことを称賛されたのか？

8節「**わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。**」、これは文章として繋がっていないのですが、神の評価は「**なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。**」です。これがこの教会が神に喜ばれ称賛された理由です。どのような教会だったのか？みことばが教えています。

1. あなたには少しばかりの力がある

「**少しばかり**」ということばは、ある箇所では「**小さな群れ**」を指すことばとして使われています。ルカの福音書12:32に「**小さな群れよ。恐れることはない。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです。**」と使われています。また、同じルカ19章にはザアカイの記事がありますが、その中で19:3には「**彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見る事ができなかった。**」と、ここには「**低かった**」ということばで使われています。ですから、「**少しばかり**」と

は「数が小さい」、「身長が低い」というようにも使われているのです。

では、ここで何を言わんとしたのか？フィラデルフィアの教会は非常に小さな群れだったということです。また、同時に、この教会を形成していた人々はこの世的に言うなら、余り価値がないと思える人々、貧しく身分の低い人々だったのです。でも、実は、この教会は大きな影響力をもっていました。「力がある」と言います。教会員たちはただ救われただけでなく、神のみことばによって彼らの信仰は成長し、彼らはこのすばらしい救いを宣べ伝え続けていたのです。

2. わたしのことばを守った

すべてのことをご存じである神ご自身が、このフィラデルフィアのクリスチャンたちに「あなたがたはわたしのことばを守った」と言われるのです。どうして彼らは神のおことばをしっかりと受け止めてそれに従って歩いていったのか？それはこの人たちは神を愛していたからです。神を愛する信仰者は神のみことばに従います。ことばでどれ程「愛している」と言っても、みことばを無視しているならそれは偽りを言っていることになります。私たちは神を騙すことはできないのです。

イエスはこのように言っておられます。ヨハネ 14 : 23 「イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」と。そして、神のことばを守り続けることがクリスチャンである人の特徴なのです。ヨハネ 8 : 31 に「そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」とある通りです。

ですから、神によって救われている人には特徴があるのです。その人は神を愛するゆえに、神に感謝しているゆえに、みことばに喜んで従っていきこうとします。失敗してもみことばに従い続けていきこうとします。それがみことばが教えている救われた人の特徴です。まさに、フィラデルフィアのクリスチャンたちは救われているだけでなく、神を愛していることを彼らの行ないが証明していたのです。

先日、このような質問を受けました。「クリスチャンは救われていることが本当に分かるのですか？」と。分かりますね。救われた人には新しい願いがあります。神のことばに従っていききたいという新しい願いで生きています。神のことばが最も大切なものであり、これに喜んで従っていききたいという願いです。失敗しながらでもそのように生きていきます。そのことを通して明らかに「私は主によって生まれ変わった」ということを知ることができるのです。フィラデルフィアのクリスチャンたちは確かに救われていた。そして、そのことは彼らの生き方が証明しました。

3. わたしの名を否まなかった

このクリスチャンたちは主イエス・キリストに関する真実を守ったのです。「わたしの名」とは単にイエスの名前のことだけでなく、イエスご自身のすべてのことです。イエスはこのようなお方である、イエスは唯一の神であると、そのことを私たちがこの日本で言うならいろいろな摩擦が生じます。私たちは多神教の国に生きているからです。でも、このフィラデルフィアのクリスチャンたちはその真理を語ることによってどのような犠牲が自分に伴おうと、この真理を否定することがなかったのです。却って、彼らはこの真理を伝え続けていったのです。

この「守った」と「否まなかった」という二つの動詞は、不定過去という時制です。なぜ、この時制を使ったのか？実際にあったことだということを明らかにしたいからです。実際に彼らは迫害を経験していたのです。その中にあって彼らはみことばに忠実にあり続けていたのです。感謝なことに、神はそのことをご存じです。彼らが日々どのようなことを経験しているか、どんな困難に直面しているのか、どんな苦しみを経験しているのかをすべてご存じです。もっと言うなら、実は、そのことも神が私たちに与えてくれるものです。信仰者は、この方が絶対者であり、この方が私を造ってくださり、私を救ってくださったことを知っています。

そして、何のために救ってくださったのか？その目的も知っています。神が私たちに救ってくださった目的は、私たちがこの神のすばらしさを世に証することです。どのような方法でそのことを為すのか？それはことばだけでなく、私たちの生き方が変わるによって証することです。私たちの生き方を神が変えることによって、私たちがイエスに似た者に変えられることによって、神はご自身のすばらしさをこの世に明らかにしようとしているのです。神にはそのような力があるということです。神は私たちが造り変えることができるということです。そして、私たちの生き方を通して神がどんなお方であるのかを世に明らかにしていけるのです。その目的をもって主は私たちに救ってくださったのです。ですから、ローマ 8 : 28 で「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益ととしてくださることを、私たちは知っています。」と言い、私たちに主イエス・キリストに似た者に変えるために神はすべてのことを為しておられると、次の 29 節で述べています。「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。」と。私たちの日々の生活に起こる様々なことには神の

目的、計画があるのです。フィラデルフィアのクリスチャンたちは神の前に忠実に歩み続けていました。

4. わたしの忍耐について言ったことばを守ったから

10節に「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、…」とあります。つまり、彼らはこのような歩みをしていました。そのことを主は喜んでおられたのです。主が「大変な苦しみがあるけれど、忍耐をもってわたしを信頼して耐えていきなさい。」と言われた命令に従ったということです。

ですから、彼らはこのようなクリスチャンであったということを私たちは主のおことばから見ることができます。すばらしいクリスチャンたちでした。本当に神のことばを信じて従っていったのです。大変な苦しみがあっても忍耐をもって主を信頼しながら、彼らは歩み続けていったのです。そのことを主が喜ばれたと私たちが覚えるときに、私たちが考えなければいけないことは、そのような生き方を私はしているかどうか？です。もし、そうでなければ神は喜んでおられません。考えてみる必要があります。

C. 主の警告 9節

9節には主の警告が記されています。「見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。」、サタンの会衆に属する者たちが、残念ながら、この教会にもいたのです。

1. 警告の対象 : サタンの会衆に属する者

この人たちは、見かけは非常に信仰的であるのに、実は、救われていないのです。そのような人たちはこれまで見て来た教会にもいました。どの時代でも、どの国でも、同じことがあります。私たちの群れにも同じことがあるかもしれません。見かけは羊のなりをしている、非常に信仰的なクリスチャンであるかのような姿で、そのように話しているかもしれません。しかし、実のところは、心は神と繋がっていないのです。ですから、いつまで経っても変化が起こって来ません。神への愛も出て来ません。見かけだけのクリスチャンです。そのような人がいたのです。ここに「ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、」と説明されています。

本物のユダヤ人について、ローマ2:28, 29でこのように記されています。「:28 外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、外見上のからだの割礼が割礼ではありません。:29 かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。」と。

2. 警告の内容 : 見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させる

彼らに対するさばきのことです。彼らがクリスチャンたちの前にひれ伏すのです。自分たちは間違っていたことに気付くからです。

3. 警告の目的 : わたしがあなたを愛していることを知らせる

神がクリスチャンたちをいかに愛しておられるか、そのことを彼らに知らせると言います。パウロもそのような人生を生きていました。神に喜ばれることと思ってクリスチャンたちを迫害していました。それが誤っていたということに神はパウロに気付かせてくださった。

ここで、このフィラデルフィアの教会にいた偽クリスチャンたちに対して、神は厳しいことを言っておられます。必ず、彼らをひざまづかせると。そして、彼らにわたしがクリスチャンたちを愛していることを明らかにすると。皆さんもいろいろな迫害、苦しいことを経験しているかもしれません。皆さんを攻撃する人が周りにもいるかもしれません。主を見上げて生きることです。主を信頼して生きることです。必ず、主のさばきが下る日が来るのです。そのことを主はこのフィラデルフィアの教会にも教えられました。

D. 主の奨励 11節

11節「わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。」、「あなたの冠をだれにも奪われないように、」とあります。

◎その理由 : 「わたしは、すぐに来る。」

主が再臨されるときが近い、だから、忠実でありなさいと勧めるのです。ここで言う「冠」とは「報い」のことです。ここでは「救いを失う」ということではありません。みことばは「あなたの救いを」ではなく「冠」と言って「報い」のことを言っています。折角、ここまで忠実に走り続けて来たのに、途中で立ち止まって怠ってしまうようなことがあるなら、その報いを失ってしまうから、走り続けていきなさいと言うのです。主にお会いするそのときまで、立ち止まることなく前に進んでいきなさいと。こういうことを神が奨励されているというのは、神からの報いを奪われてしまうことがあるからです。先にも見たように、神が祝してくださるのは主を信じて信頼して忠実に歩み続ける人です。ということは、そのことを止めてしまうなら、この祝福を得ることができない可能性があります。だから、しっかりと走り続けていきなさいと言うのです。パウロは言います。Ⅱテモテ4:8「今からは、義の栄冠が私

のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」と。

E. 主の約束 8, 10, 12節

そして、主の約束が書かれています。飛んでいます、8節、10節、12節のところでは。

1. 御国に入る 8節

「…見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。…」とあります。ここは先に文章として繋がっていないと言ったところですが、ここに「主の約束」を見ることができます。これは「御国に入る」ということです。ある人たちは「門が開かれる、門が閉ざされる」ということで、これは宣教の機会のことではないか？機会が拡大することと言います。確かに、聖書には様々なところで、扉が開かれて福音宣教ができる、その機会が与えられたという記事があります。たとえば、使徒の働き16:6, 7, 9「:6 それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。:7 こうしてムシヤに面した所に来たとき、ビテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。…:9 ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください」と懇願するのであった。」、また、Iコリント16:9「というのは、働きのための広い門が私のために開かれており、反対者も大ぜいいるからです。」、IIコリント2:12「私が、キリストの福音のためにトロアスに行ったとき、主は私のために門を開いてくださいましたが、」、このように宣教のために扉が開かれたり閉ざされたりすることがありました。

また、ある人は、主に仕える機会の拡大のことではないか？と言います。でも、ここで言わんとしているのは、救世主の御国に入ることです。なぜなら、先に私たちは「ダビデのかぎ」ということを見ました。天の御国に、新しいエルサレムに入るかぎを彼は持っているということで、恐らく、ここで言わんとしていることは、主はこのような約束を主を信じる者たちに与えられる、それは彼らとその信仰ゆえに御国に入ることです。

2. 試練のときからの脱出 10節

10節に「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。」という二つ目の約束が書かれています。「試練のときからの脱出」のことです。この「試練」とは神ご自身が与えるものです。なぜ試練を与えるのか？その人の本性を知るためです。「全世界に来ようとしている試練の時には、」とは、この後に起こると言われている患難時代のことです。というのは、旧約聖書に預言があります。ダニエル書9:25-27「:25 それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。:26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」、同じダニエル12:1にも「その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。」と書かれています。エレミヤ書にも30:7に「ああ。その日は大いなる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる。」と書かれています。苦難とか苦しみのときとあります。そのような時代が来るということを預言者は告げて来たのです。

10節を見ると、イエスがそのことを言われるのですが、それは、

(1) 全世界に : これは全世界規模の出来事だということが分かります。

(2) 来ようとしている : このことばは未来のことを指します。IIテサロニケ2:1に「さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたに願うことがあります。」とあります。

*主は教会を迎えに来られる。さばきのためではない。しかも、すぐに来られる。

(3) 地上に住む者たちを試みるために : 皆さんにこれらの絵をできるだけ鮮明に示したいと思えます。ある困難な時代がやって来ると言います。神がその時代に人々の心を試される、その試験にパスした者とパスしなかった者が出て来ます。「試みるために」とあります。人々を試みるのです。人々にテストを与えるのです。そして、ある人たちはそのテストにパスするけれど、ある人たちはテストにパスしないのです。何のことか？患難時代に入る人たちはすべてイエス・キリストを否定した者たちです。でも、神は彼らに再びチャンスを与えるのです。大変な苦しみのときです。大変な困難が彼らの身に降りかかって来ます。その時に彼らは神の試みに対して、主を見上げて主を心から受け入れたなら、つまり、試練にパスした者たちは救いに与るのです。患難時代でも救われる者たちが起こされるのです。で

も、この時代に神は彼らに試練を与えて彼らを試される、彼らに対してテストを与えられる。そのときに、まだ神を否定し続ける者たち、つまり、この試練にパスしなかった者たちは永遠の滅びに至るといふことです。

- ・試みをパスする人 — 信じる人
- ・試みをパスしない人 — 信じない人

ですから、この10節が教えていることは、そういう時代が来るときのこと、これから後のことです。全世界規模の大変な苦しみのときがやって来るといふのです。

(4) 守る

そのことを語った上で、主がこのフィラデルフィアの教会に対して教えられたことは、10節の最後に書かれています。「あなたを守ろう。」です。この「守る」という動詞は未来のことですが、実は、これは「～からあなたは出る、～からあなたが離れる」という意味です。「～から出てあなたを守ろう、」「～から離れてあなたを守ろう」といふことです。つまり、ここで主が言われたことは、フィラデルフィアのクリスチャンたちに対して、このようなことが起こるけれど、あなたがたはその大変な苦しみから守られる、その苦しみからあなたがたは出て来る、その苦しみからあなたがたは離れることができるということなのです。まさに、パウロはそのことについてこのように言っています。Iテサロニケ5：9-10「：9 神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあつて救いを得るようにお定めになったからです。：10 主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。」と。

つまり、大変な苦しみの時代が来る前に、神はフィラデルフィアのクリスチャンたちをその苦しみから救い出す、彼らがその苦しみを経験することがないように守るといふことです。私たちは主イエス・キリストの再臨が患難時代の前であると信じます。その根拠の一つがここに書かれていますのです。救われているこのフィラデルフィアのクリスチャンたちは後に来る苦しみから救い出す、その苦しみに遭わないように守られるのです。先に言ったように、この苦しみの時代に入って行く人たちは、救われていない人たちです。では、救われている人たちはどこに行くのか？その前に神の許に引き上げられるのです。神が苦しみの前にあなたがたを守るといふのです。

3. 神と永遠を過ごす 12節

神の約束を続けて見ましょう。三つ目は12節に「勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。」とあります。ここで主が言われたことは「あなたがたは神とともに永遠を過ごす」といふことです。比喩的表現が使われています。

1) わたしの神の聖所の柱としよう

黙示録21：22には「私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。」と、都の中には神殿がなかったと記されています。これは字義的に見るのではなく、あくまで比喩的な表現として見ます。どういう意味か？これは「神とともに永遠を過ごす」といふことです。元ダラス神学校の学長でもあったジョン・ウォルバート師は「フィラデルフィアのクリスチャンたちは聖所の柱のように永遠に存在し、他のものがすべて滅びても存続することを比喩的に示しているのである。」と申します。思い出してください。地震が多かった町です。地震で多くの建物が壊れましたが、そこにその柱は残ったのです。ですから、いろいろなことが起こってもあなたがたは神とともに永遠を過ごすのだと、そのことを主はフィラデルフィアのクリスチャンたちに教えるのです。

2) もはや決して外へ出て行くことはない

ここに二重否定が使われています。絶対に起こらないと申します。彼らは神とともに永遠を過ごすので試練に遭うことがないといふことです。試練が永遠に過ぎ去ったといふことです。最初に皆さんに話したことを思い出してください。パークレーがストロボンという地理学者のことばを引用していました。地震が起こる度に住民は町から逃れたのです。このメッセージを聞いたフィラデルフィアのクリスチャンたちは非常に大きな励ましを得ました。「彼はもはや決して外に出て行くことはない。」と。神が守ってください、試練に遭うことがないといふのです。その約束を教えています。

3) わたしは彼の上にわたしの神の御名と…書き記す

三つの名が書かれています。

(1) わたしの神の御名 : あなたがたクリスチャンはわたしのものである、神のもの、神に属している、神の所有物であるといふのです。

(2) わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名 :

これは新しいエルサレムの市民権を得ているということです。私たちは確実に天に入っていくのです。その市民だから、新しいエルサレムの名があなたの上に書き記されると。ヘブル書 12:22に「しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。」とあり、同じヘブル 13:14にも「私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです。」と書かれています。

(3) わたしの新しい名 : 「名」とはその人のすべてを指します。イエスの新しい名を記されると言います。私たちが天に上がったときに私たちはイエスを知るのです。これまで聖書を通して私たちはイエスのことについてたくさんを学んで来ました。でも、私たちはそのときにこの主のありのままの姿を見るのです。同じヨハネがこのように言っています。Iヨハネ 3:2「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」、この日が来るのです。主がどのようなお方だったのか、主がどれほど偉大な神であるのか、そのことを私たちは知ることになると、その約束を主はこのフィラデルフィアのクリスチャンたちに与えるのです。

F. 使信のへの傾聴 13節

そして、最後に言います。「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」』と。このメッセージで終わります。

今日、私たちが見て来たことは、人間的に見るなら余り注目されない群れだったかもしれませんが、神に喜ばれるすばらしい群でした。クリスチャンたちはみことばを真摯に受け入れてそのみことばに喜んで従おうとしていました。ゆえに、彼らを通して神が大いに働いていました。その人たちに対してすばらしい約束が主によって語られていました。

私たちはもう一度自分自身の歩みを考えることが必要です。何を神は喜ばれるのか？そのことを見て来ました。また、何を神は喜ばれないのか？それも見て来ました。自分の歩みが神に喜ばれているのかどうかを考えることです。そして、その歩みを始めていくことです。喜ばれない歩みから離れて、神が喜ばれる歩みをすることです。もし、あるとき、信仰において怠惰になってしまったなら、もう一度目を覚まして、かつて主に対して忠実に歩んだように歩み続けていくことです。主はあなたを使ってください。あなたが衰えたから神は使えないのではありません。肉体的に弱いから神が使えないのではありません。あなたが神にその機会を与えないから神は使えないのです。どうぞ、ご自分をもう一度振り返ってみて、神のすばらしい恵みを伝える者として歩んでいきましょう。今日から！！

《考えましょう》

1. 手紙の送り主である神は、ご自分についての説明をされていました。それらをあなたのことばで記してください。
2. この教会が神によって称賛された理由を挙げてください。
3. 10節は、教会が患難時代を通らないことを教えていました。その理由を説明してください。
4. また、10節は、来るべき患難時代のことを説明していました。それを記してください。